

併設型小中一貫教育校の開設について

本市では、学びと育ちを継続的に進めることができる小中一貫教育を計画的に進めるため、市内の中学校区ごとに就学前教育機関、小・中・特別支援学校からなる「校区ユニット」を設置し、それぞれの校種間で連携し、校区ごとの教育課題に沿った取組を進めてきました。その中でも、高丘中学校区では、平成28年度からこれまで、先進的に小中一貫教育の研究に取り組んできました。

その成果として、以下の教育効果が期待できることから、令和3年4月から、本校区の3校（高丘東小学校・高丘西小学校・高丘中学校）を併設型小中一貫教育校として新たに開設します。

1 小中一貫教育校に期待される効果

- (1) 系統性や連続性を意識して、小学校6年間と中学校3年間、合わせて9年間の教育を行うことが可能となります。
- (2) 中学校から小学校への乗り入れ授業など、学校間の教員が連携して9年間継続した指導を行うので、児童生徒の一人一人に細やかで効果的な指導を行うことができ、学力向上に繋がります。
- (3) 異学年交流（小1～中3）の幅が広がることにより、児童生徒の精神的な発達が促され、社会性の涵養が図れます。
- (4) 中1の壁、いわゆる「中1ギャップ」の緩和や解消が期待できます。
- (5) 教育課程の指導順序を、学年間や小中学校間で入れ替えたり、学習指導要領にはない独自の科目を本市の判断で設定したりすることが可能となり、より効果的で特色のある教育活動が展開できます。

2 高丘小中一貫教育校の特色

豊かな自然に囲まれた高丘地区の学校を、小中一貫教育校として一体的に運営し、以下のような特色ある教育活動を展開することで、今後の明石の教育モデルとなることを目指します。

(1) 全学年30人学級編制の実施

高丘小中一貫教育校では、小学校1年生（1年生）から中学校3年生（9年生）まで全てを30人学級に編制することにより、それぞれの児童生徒の個に応じた、よりきめ細やかな学習指導を行います。

(2) 小学校における一部教科担任制の導入

学級担任制から教科担任制への移行が児童生徒にとって急激な変化とならないよう、教科担任制を一部取り入れ、中学校教員等による教科学習を行います。

(3) 小学校 1 年生からの外国語教育の充実

本来は小学校 3 年生から実施する外国語教育を、コミュニケーション活動を主として小学校 1 年生から導入します。

また、ALT（外国語指導助手）を重点的に配置し、各学年で発達段階に応じた外国語教育を推進します。

(4) 理数教育・プログラミング教育の充実

兵庫県立明石北高等学校と連携協定を結び、理数教育やプログラミング教育で講師の派遣及び高校生との交流を図ることで、専門的な知識習得への意欲を高め、幅広い学びを身につける素地を養います。

(5) ICT 教育の充実

タブレット端末や常設型プロジェクターをはじめとする ICT 機器を整備・充実し、授業で活用することにより、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を支援します。

また、さまざまなツールを駆使して、各教科等での学びを繋ぎ探求する教科横断的な教育を進めます。

(6) 通学区域特認校制度の導入

本市初となる小中一貫教育校における特色ある教育を、より多くの児童生徒が受ける機会を確保するため、通学区域特認校制度を導入し、市内全域からの通学を可能とします。